

業績期待を背景に先高観強まる米ハイテク株



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① GAFAM5社すべてが市場予想上回る

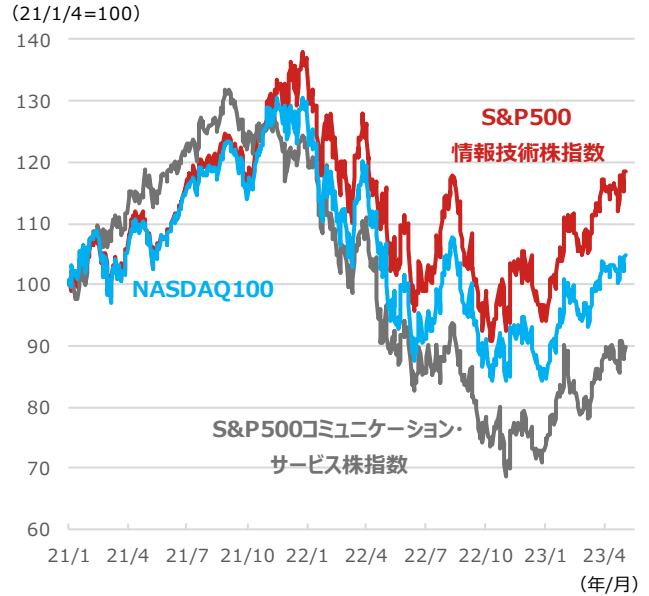
米ハイテク大手のGAFAM（グーグルの親会社のアルファベット、アップル、フェイスブックを運営するメタ・プラットフォームズ、アマゾン・ドット・コム、マイクロソフト）が発表した1-3月期決算は5社すべてが市場予想を上回る内容となりました。5社合計の時価総額は、GAFAMの決算が出始める直前の4月25日から5月8日までに5,300億米ドル超増え、ハイテク株主体で構成されるNASDAQ100が連日で年初来高値を更新するなど、米ハイテク株の先高観が強まっています（右上図）。今後も米ハイテク株の上昇基調は継続するのでしょうか。

ポイント② 米ハイテク株の上昇基調は継続へ

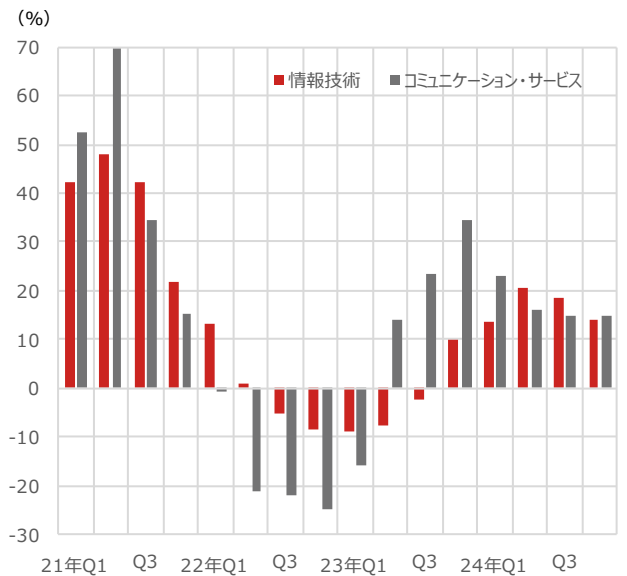
米ハイテク業種のEPS（1株当たり利益）をみると、コミュニケーション・サービスが4-6月期に増益転換するとみられており、情報技術も4-6月期以降は減益幅が縮小し、10-12月期以降は2ケタ増益に回帰する見通しです（右下図）。足元でAI（人工知能）の普及が進むなど成長分野の需要拡大が見込まれており、今後の米ハイテク株の業績の持ち直しをサポートすると想定されます。

また、米ハイテク大手は現金創出力が高いこともプラス材料です。8日にFRB（米連邦準備制度理事会）が公表した上級融資担当者調査では、中・大規模企業向け融資の条件が一段と厳格化されたことが判明しました。3月以降の金融システム不安の高まりを受けて企業の資金調達環境は悪化しています。ただ、企業が自由に使えるお金の尺度であるフリーキャッシュフローはアップルが1,114億米ドル、マイクロソフトが651億米ドル（ともに前期）と潤沢であり、米ハイテク株の資金繰り環境が良好なことも株価の上昇持続を支えそうです。

S&P500情報技術株・コミュニケーション・サービス株指数・NASDAQ100



S&P500のハイテク業種のEPS前年同期比増減率



個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格の上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。